

1. 本園の教育目標

ー子どもにかけられる願いー

子らよ 足をつかって丈夫に 手をつかってかしこく たしかな自然にふれ 美しい音を聞き 語らいの輪をひろげ 心豊かに育てほしい

2. 本年度の重点的に取り組む目標

○幼児の遊びがより豊かになる保育の展開

○安全に園生活を送るための環境を整える

3. 本年度の評価項目の達成目標及び取り組み状況

評価 A:達成している B:概ね達成している C:一部改善を要する D:改善を要する ○成果 ●課題

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					自己評価結果		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価 取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見	
幼児の遊びがより展開豊かになる	幼児一人一人が十分に自己発揮できる保育の展開	4	幼児の思いを受け止め、遊びの興味関心がより広がっていくように保育を工夫する	3.25	4	幼児が友達と思いを伝えあい、遊びを展開させていくようになった。	3.7	B 3.1 ○子どもの遊びを観察することで、興味や関心があることを把握し、その時々の子どもの希望に応じた素材を提供し、環境を整え、ゲーム・わらべあそび等の新しい遊びを紹介することができた。その中で子ども同士が会話を楽しみ、より面白くなるように遊びを展開させ、ルールを工夫する姿が見られるようになった。 ○子どもと一緒に遊ぶことで子どもが何に興味を持っているのかを理解することができた。その一方で、遊びに入りすぎずに見守ることの大切さも感じた。 ○遊びや活動を通して「どのような育ちが見られるだろうか?」「この遊びへとつながってほしい。」と保育者が目的を明確に定めることで遊びが広がっていった。 ●一人一人を観察することを意識してきたが、全員の把握まではできなかった。 ●行事を子どもの主体性につなげて進めることに難しさを感じた。	
		3	幼児一人一人をよく観察し、個々の記録を取り、興味や関心があるものを把握する		3	幼児が気の合う友達の中で会話を楽しみ、安心して遊ぶようになった。			
		2	幼児と一緒に遊び、信頼関係を築く		2	幼児が好きな遊びを自分で選んで楽しんでいる			
		1	幼児同士の遊びを見守る		1	幼児が遊びに対して消極的で教師の指示を待って遊ぶことが多い			
	活動内容の充実による指導計画の改善	4	教職員全体で定期的な話し合い以外にも保育の取り組みや結果等、情報交換の機会を持つ	2.5	4	伝え合った遊びをクラスの状況に合わせて取り入れて、自分の保育に取り入れるようになった	2.8		C 3.2 ○各クラスの活動内容・保育の進め方等を伝え合う時間を意識して作ることができた。 ○短時間でも教材の利用方法や遊びについて情報共有の場面を持ち、その中で積極的に質問をするようにしてきたことがよかった。 ○より具体的な保育内容を話し合えるように各自がきちんと意見をもって話し合いに参加していくようにしていく。 ○積極的に伝えられるように、自身の保育の引き出しを増やしていきたい。 ○指導計画の内容をより具体的に变えていったことで取り組みやすくなった。その際、あまり取り組むことができなかった活動もあったので計画の整理・見直しをしていきたい。 ●話し合った内容を実際の保育へどのように落とし込み保育を深めていくかはそれぞれの保育者次第の面がある。
		3	学年で月2回指導計画を基に具体的な保育内容を出し合い、記録する		3	面白い遊びや活動について伝え合う姿が多く見られるようになった。			
		2	学年の指導計画の話し合いの中で、活発に意見を出し合う		2	話し合いで学んだことを実際に保育の中で試すようになった			
		1	学年で月一回は指導計画の見直しを行う		1	自分が知っている遊びのみで保育を進める			

安全に園生活を送るための環境を整える	教職員や幼児の安全対応力を高める	4	遊具の安全な使い方、ケガのない園内での過ごし方等、幼児と一緒に安全について考える機会を作る	3	4	幼児が園内での過ごし方や遊具の安全な使い方を守って遊べるようになった。	2.8 C 2.7	○危険個所を職員同士で共通理解して見守ることができた。 ○子どもへの指導がその場限りになることが多かったので、子ども自身が危険を予測できる声掛けをしていきたい。 ●危険マークをより分かりやすいものに変えてはどうか。 ●一日の活動を静と動メリハリをつけることがケガの無い過ごし方につながるのではないか。
		3	園内の危険個所に『危ないマーク』を貼り、幼児に分かるように伝える		3	幼児が危険なものや状況があった時に保育者に伝えることができる		
		2	園内の危険個所をミーティングで報告しあい共通理解する		2	幼児が保育者の声掛けを受けると遊具の安全な使い方を守って遊べる		
		1	毎朝園庭遊具の安全点検をする		1	幼児が遊具の安全な使い方を知る		

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者の主体性	保育者同士の積極的な意見交換。責任感を持てる役割分担。見通しを持った準備・計画を立てる。
子ども個々の把握・記録の工夫	子どもをよりよく観察し、記録することによって、育ちを把握する。

5. まとめ（総合的な評価結果と今後の課題）

前回の中間評価での成果・課題を意識して後半を過ごしたことで、目的意識をもって保育に取り組むことができた。

自己評価総括の話し合いの中で、次年度に向けて「活動内容の充実による指導計画の改善」の項目の指導計画の話し合いの効率化・時間の確保の部分での課題意識が強かった。改善策として、各学年で記録・休憩の時間を採配することで、有効に時間を使えるのではないかと。保育者自身の保育スキルを向上することで、話し合いの質も向上するのではないかと。という意見があがった。

学校評価の取り組みを通して、職員間で指導計画を改善し保育の質を向上していこうという意識を共通理解することができた。

6. 学校評価委員会による評価及び意見

- ・保育者全員が目的を共通理解して学校評価に取り組んでいることがよくわかった。
- ・幼児一人一人を観察してそれぞれの成長を把握することが課題としてあがっていたが、幼児の成長は学校の成績のように数値化できないので、難しい面があると思う。保育者ごとに評価基準の差が出ないように、育ちを見る視点を何点か決めてはどうか。
- ・保育者自身の自己評価、学期ごとに目標を設定し振り返りの機会を作ることで、保育者の成長につながるのではないかと。
- ・話し合いの時間確保について、小学校では週に2回は全職員で話し合いを持つとあらかじめ決めていた。予定として組み込んでおく時間を取りやすい。
- ・保護者会として行事に多く関わってきた中で、お祭りでのお店屋さんごっこで幼児が工夫して品物売る姿や観劇会が終わった後も劇の内容を遊びの中にとり入れて楽しむ姿がみられた。行事等で見る園児たちの姿に、主体的に取り組んでいる場面が多くあった。幼児が自己発揮できるように工夫して保育を進めてきた今年度の取り組みの成果だと感じた。
- ・園としてこれからも、小学校・地域との交流を大切に継続していきたい。そのために早めに幼稚園の年間の予定を伝えていきたい。

r令和7年3月17日

学校関係者評価委員

印

印

印